

JIM-NET 便り

いよいよ、 チョコ募金が始まります。

2019年10月14日

鎌田 貴 (JIM-NET 代表)



たくさんの若者が、ボランティアで駆け付けてくれるようになりました。

お陰さまでチョコ募金も15回目を迎えることができました。恒例となったチョコ募金キックオフイベント、今年は11月2日に開催いたします。

LUNA SEA と X JAPAN で活躍している SUGIZO さんを中心とした難民キャンプ専用バンド・ババガヌージュが、10月にはイラクのアルビル郊外にある、JIM-NET が支援をしているダラシャ克蘭難民キャンプや、新しくできた JIM-NET ハウスでライブをしてくださいました。その勢いを持ち込んで、キックオフイベントに出演してくださいます。さらに、多くのアーティストが協力してくれる予定になっています。ぜひ、たくさんの人にお声をかけて、参加してください。

JIM-NET は外務省の「日本 NGO 連携無償資金協力」から助成金もいただいておりますが、NGO 自身の自助努力で運営資金を作り出していることに関しては、高く評価されています。その中でも大きな柱が、チョコ募金です。今年は14万個の準備をしています。そして、チョコ募金を支援して下さる皆さんの投票で、今までのチョコ募金で好評を博した TOP20 の中から図柄4種類を選び、復刻版として決めさせていただきました。

チョコ募金のお申し込み方法は
同封のちらし又は裏表紙をご覧ください！

今年の JIM-NET 会議では、イラクの小児がん専門医師の努力で、徐々にですが治療成績が上がってきていることが報告されました。さらに JIM-NET ハウスが出来たことによって、白血病やがんの子どもたちやその家族を精神的に支えることも出来るようになりました。

JIM-NET ハウスを軸にして、イラクの人たちの中に「病気の子どもたちを支えたい」という思いが広がり始めています。JIM-NET の活動は、平和へとつながっていきます。もう二度と戦争をしない、テロリストたちの暴力を許さない、平和なイラクにしようという思いは強まっているように思います。

イラクの子どもたちを助けることによって、ますますイラクと日本の信頼関係が強くなり、それが回りまわって日本の経済を支え、イラクに安定した平和が訪れることが、中東全体の平和の機運につながるのではないかと思います。

JIM-NET 自体が積極的な平和活動ができるように、働き方改革を進め、社会保険労務士、顧問弁護士を置きました。できるだけ透明性の高い NGO にして、世界の平和に貢献したいと思っています。

いよいよチョコ募金が始まります。ぜひ、熱い熱い応援とお力添えをお願いいたします。



地元の医学部の学生たちが JIM-NET の活動に共感し、協力を申し出てくださいました。

CHOCOLATE for PEACE!

～チョコ缶の絵を描いてくれた少女3人の物語～



皆さまの温かなご支援のお蔭で、チョコ募金は今年で15回目を迎えることができました。昨年末から今年の3月末までご支援くださった方々に過去のチョコ缶のデザイン人気投票をして頂きました。

この度、人気のあったTOP20の中から復刻版として4種類を選び、お届けいたします。節目の年に皆さまと改めて「チョコ募金」を振り返りたいと考えております。

今回チョコ缶に選ばれた絵は、サブリーン、ナブラス、ハウラという3名の少女が描いてくれました。

JIM-NETの歩みの中で代表的な少女たちです。残念ながら、サブリーンとナブラスは亡くなってしまいましたが、ハウラは元気になって、今は大学に通っています。

子どもたちの絵がチョコ募金の缶のデザインとなり、皆さまのご寄付により、他のがんの子どもたちの支援に使われます。

この15年間、温かい応援とご支援に心から感謝申し上げます。これからもチョコ募金へのご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

ナブラス



2016

【新しくこの世に生を受けた“ナブラス”】

2016年のチョコ募金でポインセチアの絵を描いてくれたナブラスがこの世を去って4年目が経とうとしています。

ISによるヤジディ教徒への虐殺から逃れ、建築中のコンクリート剥き出しの家に住んでいたナブラス一家。そんな一家をこの夏、スタッフと共に訪問しました。

灼熱の太陽が照り付ける真夏のクルド自治区、JIM-NET アルビル事務所から車で3時間ほどの場所にナブラスの家がありました。そこで温かく軒先で出迎えてくれたのは小さな女の子でした。

「この子はね、“ナブラス”っていうの。長男の子どもだよ」静かな声の中にも、喜びが入り混じった声で教えてくれたのはナブラスのお父さんでした。ナブラス



新しく生まれた“ナブラス”ちゃん



ナブラス

の兄が結婚し、初めて産まれた子どもに“ナブラス”と名付けたのでした。ナブラスの兄は「迷わずに“ナブラス”と名付けたよ」としっかりと手つきで“ナブラス”を抱え、優しく微笑んでいました。

ひとしきり話を終えたところで、ナブラスの母が1冊のデザイン帳を持ってきてくれました。「これはずっと大切にしているの」そこにはチョコ募金で描いてくれた赤いポインセチアとは別に、黄色いポインセチアが描かれていました。ナブラスの息吹が蘇ったかのようなその絵を私たちはしばらく眺め、少しの間お借りすることができました。今後、何らかの形で皆さんに紹介していけたらと思います。

サブリーン



サブリーンが、目のがんになったのは11歳の頃です。不法居住区に住む貧困家庭の子どもで、学校に行ったことがなく、バスラ子ども病院の院内学級で初めて絵を学びました。

そのため初期の絵は、線がブルブル震えていて、幼い子どもの絵のようでした。

しかし、どんどん上達し、見る人々の心を掴み、たくさんのファンができました。

サブリーンは小さい子たちに絵を教えてあげる優しいお姉さんだったそうです。

チョコ募金は、初めの頃はプラスチックケースに入っていたのですが、サブリーンが3度目の再発をし、もう危ないかもしれないという知らせが入り、サブリー



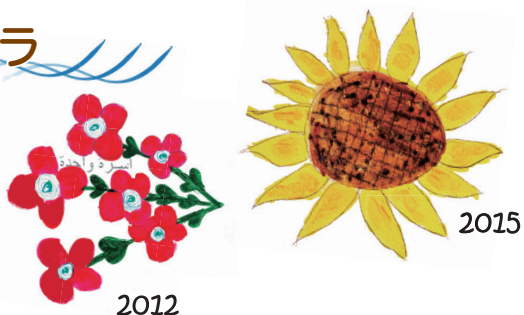
サブリーンと現地スタッフ・イブラヒム

ンを励ますために、かわいい缶にすることにしました。

しかし、残念ながらサブリーンは缶の完成を待たず亡くなりました。15歳でした。チョコ募金の缶にはサブリーンや子どもたちとの思い出がたくさん詰まっています。

「私は死にます。でも幸せです。私の絵をチョコレートに使ってくれるから。イラクの子どもたちを助けてください」——私たちはサブリーンの最後の言葉を胸に刻み、活動を続けています。

ハウラ



絵を描くことが大好きなハウラは「赤い花」でも親しまれ、その絵はタオルハンカチやポストカードでも紹介されています。これまで、5回ほどチョコ募金に絵を提供してくれました。

ハウラは、自衛隊が駐留していたサマーワ近郊のルメイサという場所で生まれた8人兄弟。2005年、白血病と分かりバスラの病院へ（約300 km）通院が必要になった折、JIM-NETが交通費の援助を続け、ハウラは白血病を乗り越えました。

2015年の夏、ハウラが初来日を果たしました。「日本は平和ですね…。爆発音や銃声が全く聞こえないなんて！そして電気も水にも困らず、安心して街を歩けることが本当に羨ましい…」と優しい眼差しで静かに

話してくれたことが忘れられません。

今では24歳となり、サマーワにあるアルフラト・アルアウサト技術大学で会計学の勉強に励んでいます。勉強の合間に相変わらず絵を描いているとスケッチも送ってくれます。大学で学んだことを通して医療関係で役に立てることを目標に頑張っているハウラは大変生き生きとしており、私たちにも勇気とエネルギーを与えてくれています。



ハウラ



2015年、六花の森でのスケッチ風景



ハウラの赤い花を刺繍したハンカチタオル

JIM-NET はこんな活動をしています

★イラク小児がん支援

【医薬品支援と貧困患者支援】

小児がんの治療を行うアルビル、バスラ、バグダッド、モスルの病院に抗がん剤や治療に必要な医薬品を支援しています。また、シリア難民や国内避難民の患者も多く、医薬品購入や交通費の支援を個別に行っています。

【患者とその家族への心理社会的な支援】

2019年5月に完成したイラク初となる心理社会的な支援を実施する「JIM-NET ハウス」。子どもたちが治療のた

め遅れてしまった勉強をボランティア教師たちがサポートし、アートやスポーツを通し心のケアも行っています。また宿泊場所を必要とする患者家族のための宿泊サービスも提供しています。

【医療従事者の研修と学校での啓もう活動】

がんの子どもたちが暮らしやすい環境や社会を目指し、ソーシャルワーカーの育成や小・中学校でがんやがんの子どもたちに関する啓もう活動を実施しています。

★シリア難民支援

【妊産婦支援・ダラシャラン難民キャンプ（イラク）】

所管の保健局の要請により、今まで支援していた葉酸の配布から超音波専門医の派遣へと切り替えました。予算の都合で週に1度の派遣ですが毎回多くの妊婦が検査に訪れています。また、粉ミルク支援と女性のためのワークショップは継続して実施しています。

【医薬品支援・シリア国内難民キャンプ】

シリア国内で支援活動を行っている団体と連携し、シリア国内にある支援が届きにくい難民キャンプへの医薬品支援を実施しています。

★福島支援

今年度は300万円を福島支援に充てています。

2019年度上期は、以下の支援を行いました。

【福島を伝え、再生可能エネルギーを学ぶ 2019 福島・ドイツ高校生交流プロジェクト(アース・ウォーカーズ主催)】

福島の高校生9名が、夏休みに約2週間ドイツを訪問し、日本とドイツのエネルギー企業や行政の取り組みの異なる点について学びました。また帰国後は、報告会を実施し、現地で学んだことなどを報告しました。昨年度、ドイツスタディーツアーに参加した高校生たちから、感想やご寄付への感謝を寄せ書きしたものをいただきました。

2019年度下期には、福島の子どものための保養などの支援も行っていく予定です。



昨年度は、チョコ募金から96,710,625円集まりました。皆さまから頂いたご寄付は、イラクの小児がん支援、シリア難民支援、福島の子どもたちを放射能から守る活動に、大切にに使わせていただいております。ありがとうございました。

♥チョコ募金 11/15（金）から受付スタート

お申し込み先

TEL 03-6908-8473（平日10時～16時）

ホームページから <http://jim-net.org>

※1セット(4缶入り)2200円からお申し込みいただけます。

配送手数料は別途ご負担をお願いしております。

チョコ募金キックオフ & JIM-NET 15周年記念チャリティーイベント

音楽×チョコレート＝平和

日時：2019年11月2日(土) 18:00(開場) 18:30(開演)

会場：牛込筆筈ホール

都営地下鉄大江戸線「牛込神楽坂」A1からすぐ

東京メトロ東西線「神楽坂」から徒歩10分

前売り券：2,000円 当日券：2,500円

小中高大学生：1,000円 未就学児：無料

お問い合わせは

TEL：03-6228-0746

info-jim@jim-net.net

【出演】

パバガヌージュ

(難民キャンプ専用バンド)

Singers for Peace

(ゴスペルシンガー)

湯川れい子(音楽評論家・作詞家)

安田菜津紀(フォトジャーナリスト)

鎌田真(JIM-NET代表)

